

読解指導の方法と過程

—接続詞による予測・推測を利用した指導例—

加納 千恵子

要 旨

読みの3技能と呼ばれるものに、スキミング、スキヤニングおよび予測・推測がある。そして、予測・推測にはトップダウン型とボトムアップ型とがあるが、接続詞からその後続く文脈を予測・推測するというのは、ちょうどその中間に位置すると考えられる。本稿では、米国 MIT において1990年春に行った、接続詞による予測・推測を利用した読解授業について報告し、予測・推測という読みの技能を学生に意識させることによって、読解力をつけさせることを目的とした指導の方法が、学習者にとってどのような効果があるかを考察する。

〔キーワード〕 読みの技能 予測・推測 トップ・ダウン型
ボトム・アップ型 読解指導の方法

1. はじめに

初級の日本語指導の目標は、多くの場合、日常会話ができるようになることであり、4技能の中では、主に「話し」、「聞き」に重点が置かれているのに対して、中級になると「読み」の比重がかなり大きくなり、新聞を読んでおおよその意味がわかること、という辺りがその目標とされるようになる。さらに上級になれば、「読み」に加えて完べきな「書き」も要求されるようになる。もちろん中上級にも「話し」、「聞き」は存在するはずであるが、従来は、指導の中心がどうしても「読み」、「書き」になる傾向が強かった。しかも、初級の日本語指導が主に文型・文法の積み上げを中心に進められていたことから、中級になっても依然として文型・文法や語彙・表現を教えるために文章を読む、というような読解指導も多く行われてきた。

近年、とくにコミュニカティブ・アプローチの立場から、そのような読解指導のあり方を本末転倒とする批判が出され、読解力そのものの養成を目標とした読解指導の必要が叫ばれるようになった¹⁾。また日本語学習者の中には、学習動機や目的が日本語への興味や日本語そのものの習得ではなく、日本での生活や専門の研究のための手段を獲得することであるにすぎない、という者が急増しつつあり、専門の研究を目指す者、とくに理工系の研究者の場合には、初級を終えるとすぐに専門の文献や論文等を読みたいという声も多く聞かれるようになった。そのような中で、読みの技能

を強化することによって読解力をつけさせようとする読解指導の方法も提唱され始めている。岡崎(1989)は、読みの3技能として、スキミング、スキヤニング、予測・推測をあげているが、これらの技能の存在は、主に米英を中心とする英語読解指導の分野ではすでに定着した考え方となっている²⁾。しかし、日本語教育において、これらの技能を具体的に授業の中でどのように指導しているか、という方法の研究および試行はまだ始まったばかりである。

本稿では、この読みの技能のうちの予測・推測の力をどのように日本語の読解指導に役立てていけるかを、接続詞による予測・推測を利用した読解指導の実践例を報告しながら、授業過程および学生のアンケートの結果の考察を通して考えてみたい。

2. 予測・推測の技能

一般に予測・推測には、トップダウン型とボトムアップ型があると言われている。たとえば、読もうとしている文章にある、すでに知っている言語形式を手がかりにその言語の解釈方法(文章、語彙・表現の用法、談話の構造などを理解する手だて)を使って、知らない言葉やわからない部分の意味を類推したり、全体の意味を組み立てたりしていくというのはボトムアップ型の予測・推測といえる。逆に、その文章にある書いてある内容について、その題名や文章中の図表・写真などを手がかりに、読み手の一般的予備知識や専門知識などを使ってあらかじめ予測しながら読むというのはトップダウン型といえる。そして、現実の読解行動において読み手は、そのような2つの方法を互いに相補う形でうまく使って情報を得ながら読んでいるのである。したがって、読みがうまくいかない場合、つまり読んでもよくわからない、わかったと思っても結果的に必要な情報が得られていない、などの場合には、上のどちらかが足りないか、あるいは両方が十分でないことが考えられる。

たとえば、医学文献や科学文献、法律書などを読むとき、日本語のネイティブのようにどんなに言語の解釈方法を十分持っている読み手でも、その分野についての予備知識を全く持たない読み手には、必要な情報の収集はむずかしい。反対に、日本語の初級者であっても、その分野の予備知識を豊富に持っている専門家にとっては、だいたいの意味をとることはやさしい可能性がある³⁾のである。

天満(1989)は、英文読解のストラテジー⁴⁾として、次のものをあげている。

- ①文レベルの読解ストラテジー①-1. 語彙のストラテジー
 - ①-2. 統語のストラテジー
 - ①-3. 意味のストラテジー
- ②文章レベルのストラテジー

①-1の「語彙のストラテジー」というのは、文中で未知の語に遭遇した場合の対応策であり、①

-2の「統語のストラテジー」というのは、文の意味を理解するために、それぞれの語のもつ統語上の関係（語順や品詞など）を使うことである。①-3の「意味のストラテジー」というのは、逆に個々の語の意味から統語上の調整をする場合に使われるものであるとされている。天満は、それぞれをさらに詳しく、以下のように説明している。

①-1. 語彙のストラテジー：

- (1)前後の語、および文のコンテキストから推測する。
－同意語、反意語、説明・描写・例示・因果関係などがヒントになる。
- (2)不明の語の形態に注目し、語の成り立ちの知識を用いて、接頭辞、接尾辞、語幹を識別し、複合語であればそれぞれの語幹を識別し、意味を推測する。
- (3)以上のストラテジーを使ってもなお意味の推測が不能の場合、そのままにして先に進むか、どうしても特定しておく必要がありそうなら辞書を引くか、のどちらかをする。

①-2. 統語のストラテジー：

- (1)冠詞や数詞があれば、そこが名詞句の始まりと考えて、その句の終わりを示す名詞を探す。
- (2)前置詞があれば、そこが前置詞句の始まりと考えて、その句の終わりを示す名詞を探す。
- (3)時制を伴う助動詞があれば、そこが動詞句の始まりと考えて、その句の終わりを示す主動詞を探す。
- (4)関係代名詞があれば、そこが関係節の始まりと考えて、その主語、述語を探し、その節が修飾する語を探す。
- (5)従属接続詞があれば節の始まりと考えて、その節の主語と述語を探す。
- (6)最初の節は、主節でないという標識がない限り主節と考える。
- (7)'so'の後に形容詞、副詞があれば、あとに'that'で始まる節、'too'があれば、'to'不定詞があると予測する。

①-3. 意味のストラテジー：

- (1)まず内容語に注目して、意味の通る命題を考え、それに適合するように文を構成素に分析する。
- (2)動詞、形容詞、副詞、前置詞、名詞の基底にある命題機能の意味的条件に合う構成素を探す。
- (3)旧情報に対応する名詞句を探し、それに対応させて意味も解釈する。
- (4)最初の名詞－動詞－名詞の連鎖を見つけたら、特に別の標識がない限り、動作主－動作－目的と考える。

(5)とくに標識がない限り、節が2つあれば、最初の節が始めに起きたこと、次の節があとで起きたことと見なす。

(6)とくに標識がない限り、旧情報が新情報に先行するものと見なす。

さらに、文章レベルのストラテジーとして、以下のようなものをあげている。

②文章レベルのストラテジー：

(1)テキストの題字、作者名、あるいは挿画、写真などの手がかりから内容を推測する。

(2)予備的な読み（スキミングあるいはスキヤニング）をする。

(3)読む目的に応じて、精密読み（intensive reading）か、広範読み（extensive reading）かを定める。

(4)テキストの型（描写型、物語型、論説型）を知る。

(5)読むテキストの型によって、そのテキストの構造スキーマを把握する。

(6)読むテキストによって、そのテキストの内容スキーマ（読み手のもつ既有的知識構造）を活性化させる。

(7)テキストを理解するための構造上の手がかりから、アウトラインを作る。

(8)サマリーを作成するためのストラテジー

1. 不要な箇所は省略する。
2. 重要ではあるが余剰的な箇所は省略する。
3. 同類に属する語は上位の語で代表させる。
4. 個々の行動は上位の行動に統合する。
5. 主題文（topic sentence）をテキストから取り出して入れる。
6. 主題文がテキスト内に明示されていない場合は、自分でそれを作る。

では、これらを日本文の読解の場合に当てはめて考えてみよう。下線をひいた部分が、英文の場合と異なると思われるところである。

①-1. 語彙のストラテジー：

(1)前後の語、および文のコンテキストから推測する。

(2)不明の語の形態に注目し、語の成り立ちの知識を用いて品詞を識別し、意味を推測する。
また、表記に注目し、かたかななら外来語、ひらがななら助詞、副詞、接続詞など、漢字と送り仮名であれば、その送り仮名によって動詞か形容詞かを類推する。

(3)以上のストラテジーを使っても、なお意味の推測が不能の場合は、そのままにして先に進むか、どうしても特定しておく必要がありそうなら辞書を引くかのどちらかを、する。

①-2. 統語のストラテジー：

- (1) 文の終わりに述語（動詞、形容詞、あるいは名詞句＋だ）があるはずなので、その始まりを探す。
- (2) 述語部分から助動詞や複合文末表現などを除いて、主動詞（あるいは形容詞・名詞＋だなどの主文の述語）を探し、その主語を探す。主語が省略されている場合は、それが何か考える。
- (3) 助詞（が、を、に、で、へ、と、も、等）があれば、そこが名詞句の終わりと考えて、その句の始まりを示すものを探し、その名詞句と述語との格関係を考える。
- (4) 文中に述語があって、そのすぐ後ろに名詞があれば、そこが連体修飾節の終わりと考えて、その始まりを探し、その節が修飾する語と主文の述語との関係を考える。
- (5) 文中に「こと」、「の」、「もの」などがあれば、そこを名詞句の終わりと考えて、その句の始まりを探し、主文の述語との関係を考える。
- (6) 文中に従属接続を示す形（たら、なら、ば、と、とき、から、ので、のに、ても、等）があれば、それより前を従属節、あとを主節と見なす。
- (7) 最後の節は、主節でないという標識がない限り、主節と考える。
- (8) 副詞（句）の中で、あとにどのようなものが続くか予測できるものがあれば、それを予測する。

①-3. 意味のストラテジー：

- (1) 漢字がわかれば、まず漢字部分（内容語）に注目して、意味の通る命題を考え、それに適合するように文を構成素に分析する。
- (2) 動詞、形容詞、副詞、前置詞、名詞の基底にある命題機能の、意味的条件に合う構成素を探す。
- (3) 旧情報に対応する名詞句を探し、それに対応させて意味も解釈する。
- (4) とくに標識がない限り、節が2つあれば、最初の節が始めに起きたこと、次の節があとで起きたことと見なす。
- (5) とくに標識がない限り、旧情報が新情報に先行するものと見なす。

①-1の語彙のストラテジーにおける日英の主な違いは、表記の問題である。日本語は、ひらがな、かたかな、漢字という3種類の文字を混用しているという特徴から、表記を手がかりに品詞や意味の推測が可能である。①-2の統語のストラテジーにおける違いは、日英の語順の違いによるものが大きい。日本語の主語の省略、関係代名詞がない、などの特徴も重要である。①-3の意味のストラテジーでも、日英の表記法の違い、語順の違いによるものが見られるが、かなり共通しているところも多い。ただし日本語では、英語の場合のように語順によって関係が表わされることにより、助

詞が目印となって、格関係が表わされることのほうが多いといえることができる。

②の文章レベルのストラテジーは、おそらくテキストの型や構造スキーマが多少日英で異なるだけで、大まかなところでは同じように考えられるだろうから、ここでは繰り返さないことにする。

以上のように日本語の読解ストラテジーを考えると、「予測・推測の技能」という観点から、次のようにとめることができるのではないだろうか。まず、天満のいう「語彙のストラテジー」は、未知の語の意味を知るための方法であるから、文脈からの類推というトップダウン型か、語の形態や表記からの類推というボトムアップ型か、語彙同士の類推という中間か、の3つに分けられる。これを「語彙レベルの予測・推測」とする。また、天満のいう「意味のストラテジー」というのは、語の意味からそれらの関係を類推する場合と、前後の並び方や格情報などから語の意味を類推する場合とがあるので、「語彙レベルの予測・推測」と「統語レベルの予測・推測」とに分けて考える。さらに、天満の「文章レベルのストラテジー」のところをもう少し細かく、文と文、段落と段落、さらに大きい文章のレベル（テキスト型やテキスト構造スキーマ、アウトラインなど）に分けて考えたものが、以下の表である。

	トップダウン	中間	ボトムアップ
1. 語彙レベルの予測・推測	文・関係→語	語→語	形・表記→語
2. 統語レベルの予測・推測	文→関係	関係→関係	語→関係
3. 文レベルの予測・推測	段落→文	文→文	語・関係→文
4. 段落レベルの予測・推測	文章→段落	段落→段落	文→段落
5. 文章レベルの予測・推測	題・他→文章 テキスト型→構造 スキーマ テキスト型→アウトライン		語 関係 } →文章 文 段落 }

上の表の「文レベルの予測・推測」のところは、文の意味が分からないときには、含まれている個々の語の意味やその統語上の関係から類推したりするボトムアップ型の場合と、段落全体の大意から類推したりするトップダウンの場合、前後の文から類推したりする中間の場合とがあるということ

である。段落レベルも同じように、文の意味から段落全体の意味を類推する場合、文章全体からある段落の意味を類推する場合、前後の段落との関係から類推する場合が考えられる。一般に「談話レベルの予測・推測」といわれるものは、3、4、5にかかわる部分である。

さて、本稿で扱う予測・推測の技能というのは、接続詞を手がかりに、ある文の後に続く文の内容、あるいはある段落の後に続く段落の内容を予測・推測するという技能であり、上の表の中間の網をかけた部分に相当するものである。

3. 読解指導の方法と過程

1990年3月に米国マサチューセッツ工科大学（MIT）で行った2日間の読解授業は、科学技術を専攻する米国人大学生6名⁵⁾に科学技術日本語の読解指導を行い、教師の指導行動の実態を観察、分析するという目的で行われたものであった⁶⁾。学生はMITの3年生で、約300時間の日本語を既習しており、ほぼ中級レベルと考えられる。筆者が行った読解授業のねらいの一つは、接続詞を手がかりに、その後に続く文・段落内容を予測・推測させることを、読みの技能として教えようということであった。

3. 1 教材

読解授業で使用した教材は、筑波大学留学生センターで開発された「専門書を読むための読解練習」(1990)⁷⁾の第8課に収録されているテキスト「アマゾンのマラリア」であるが、これは毎日新聞の1989年8月28日朝刊に掲載された同名のコラムから抜粋したものである。

アマゾンのマラリア

マラリアはブラジルでは一度は克服された病気だった。殺虫剤の適切な使用で、人口集中地区や沿岸地区の発生を実質的にコントロールした。アマゾン地域には存続していたが、発病は少数で、公衆衛生上の脅威にはならなかった。

ところが、1980年代に入って様子が変わった。83年に29万7千例（うちアマゾン地域28万7千例）の患者が報告され、88年には56万例（同50万例）に増えた。

原因は明らかにアマゾン地域の開発とそれに伴う大量の移住にあった。森林を伐採して農地を拓く人たちが、金鉱の労働者たちの多くはマラリアに免疫を持っていなかった。

加えて、開発による環境変化が、媒介昆虫の蚊の繁殖を促した。蚊は川の流れているところではなく、よどんだ場所、水たまりなどで繁殖しやすい。その水たまりが、開発によってできやすくなったのだ。鉱山の露天掘りのあとは水がたまるくぼみになるし、建設した道路のわきの溝も繁殖場所になる。

さらに森林の開墾は土壌の侵食を促し、流れた土のたい積で“土手”ができると、洪水後に

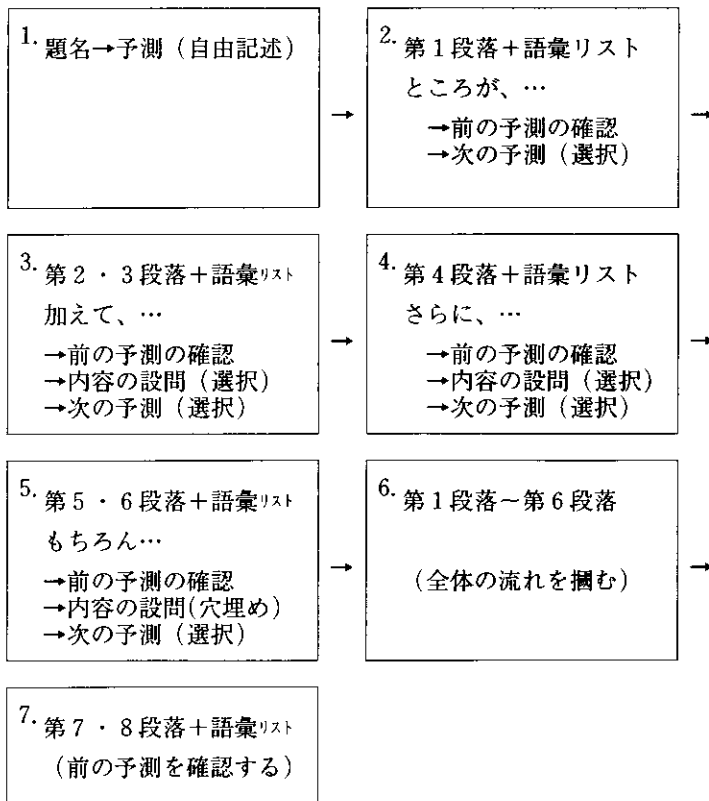
水がひきにくい。広い水たまりは蚊の大発生を招く恐れがある。

さらに鉱山地区などの粗末な家屋は、蚊の出入りが自由。蚊に無防備な造りになっている。また、道路ができて交通が便利になると、非流行地区からアマゾンへ働きに出て、マラリアに感染して帰ってくるケースも増える。

もちろんブラジルでは公衆衛生活動監督局（SUCAM）を中心に対策を進めているが、あまり効を奏していないようだ。ひとつの理由は屋内にとどまらないタイプのマラリア蚊（変種）が登場、壁などへの殺虫剤噴霧が有効でなくなったためだという。一部の居住区では流行が下火になったが、これは水が汚れ過ぎて蚊も産卵できなくなったため、というから皮肉である。

アマゾンの熱帯林は“地球の肺”といわれる貴重な存在だ。マラリアの流行はその開発（破壊）に対する天罰といえるだろう。環境などへの配慮を欠いた開発が続けば、次の天罰はもっと恐ろしい形で下るのではないか。

これを教材化するにあたって、まず題名から内容の予測をさせ、第1段落を読んだ時点で次に続く内容の予測をさせ、さらに第2段落を読んだ時点でまた次の予測、というように読みの作業が進められるように、各ページにはその段落のテキストと語彙リスト（初級で未習と思われるもの）および設問のみを載せた。そして、次に続く内容を予測するための手がかりとして、次に来る段落の始めにある接続詞を見せた。教材構成を以下に示す。（詳しくは [資料1] 参照）



学生にはこのほかに、接続詞の意味や用法の復習用に参考資料のプリント（〔資料2〕）を授業の前に渡して、知識を確認するよう伝えておいた。後で学生に確かめたところでは、「ないしは」、「ただし」、「もともと」など、一部の接続詞を除いて既習であったとのことである。また、1日目の授業の前半で接続詞の用法の復習をするために、補助教材（〔資料3〕）も使用した。

3. 2 授業手順

1日目の授業（60分）の流れは以下のようなものであった。

9:00-9:05	イントロダクション	
9:05-9:15	OHPによる接続のタイプ説明	
9:15-9:20	接続のタイプによる予測練習1.～3.	クラス授業
9:20-9:25	接続のタイプによる予測練習4.～7.	
9:25-9:30	接続のタイプによる予測練習8.～10.	
9:30-9:40	読解練習1（題名からの予測）	個人作業
9:40-9:50	読解練習2（第1段落からの予測）	
9:50-10:00	読解練習3（第2・3段落からの予測）	

まず、最初の5分ぐらいで、この2日間の授業のねらいとやり方を簡単に説明してから、OHPを使って接続詞による文のつながり方をタイプ別に復習した。そして、接続のタイプによる予測練習のプリント（〔資料3〕）を配り、一人ずつ答えを聞きながら、クラスで予測の確認を行った。ここまでは通常のクラスと同じ、クラスによる読み練習授業といえる。

次に、読解練習1を学生に配り、各自の予測を日本語もしくは英語で自由に書くように指示した。教師はクラスを巡回し、指示が正しく理解されているかどうかのみを注意し、他の内容に関するコメントはいっさい行わなかった。ここからは、いわば個人の読み作業である。そして、練習1が終わった学生にのみ、練習2（第1段落からの予測練習）を配る、という方法で授業を進めていった。学生の作業中、教師は練習の指示を正しく理解するよう注意するほかには、学生からの質問に答えるだけにした。

2日目の授業の流れは次のようなものであるが、実際には各自のペースによって多少の進みや遅れがあった。

9:00-9:10	読解練習4（第4段落からの予測）	個人作業
9:10-9:25	読解練習5（第5・6段落からの予測）	
9:25-9:35	OHPで読解練習5の設問の答えを確認	クラス授業
9:35-9:45	読解練習6（第1段落～第6段落の確認） およびOHPで全体の流れを確認	
9:45-9:55	読解練習7（第7・8段落）	
9:55-10:00	まとめとアンケートを頼む	

学生には、1日目の続きの練習を渡して作業を続けてもらい、同じようにクラスを巡回して個人作業を観察した。特に読解練習5（第5・6段落）の設問は、内容の構造を問うキーワードの穴埋めの形式だったので、出来には個人差が見られ、また質問の多く出る学生もあった。

読解練習5が終わったところで個人の読み作業を終わり、クラス授業にもどった。ここまで読んで来たところを全員で確かめ、質問が多く出た語句の説明や注意点などを指摘しながら、OHPを使って全体の流れを図で確認した。最後に、この実験授業に関するアンケート（[資料4]）を頼んで、授業を終わった。

3.3 予測とモニターの過程

学生（①～⑥；日本語ができる順⁸⁾）が授業中に行った予測とそのモニターの状況を列挙してみると、下のようになる。文は、原則として学生が書いたとおりであるが、文意が不明なところや表記の間違ひは、当人に確かめた上で書き換えた。

題名「アマゾンのマラリア」からの予測：

- ①アフリカの病気の問題が出て来るんです。たぶん死ぬことが書いてありますがけど、毎日新聞だから、ぎじゅつの日本語は使わないです。
- ②たぶんアマゾンにはマラリアがふえたでしょう。Probably, there is a special type of malaria in the Amazon area or there are more cases of it there than in other places. There must be an out-break of malaria now, otherwise they would not write about it. The article will discuss the effect of malaria on local people.
- ③この題名を見るとアマゾンでマラリアという病気のじょうたいを考えます。マラリアはか（mosquito）が広がります。アマゾンは tropical rainforest だから、かが多い。たぶんそこではマラリアは大変問題である。たぶんこの記事はアマゾンの現代のマラリアのじょうたいをせつめい。What in their lifestyles makes them especially susceptible.
- ④むかしのデータをしたらしいです。生物の研究についていいました。モスキートのかんけいについていいます。きたないみずの supply です。アマゾンのでん気はわるいです。
- ⑤その題名を読む時に、マラリアというびょう気のアマゾン地方の歴史を読みます。あるいはとくべつなアマゾンのマラリアをせつめいします。でも、もしその題名が英語で書いてあれば、その article をたぶん読みません。
- ⑥「アマゾンのマラリア」の題名を見ると、いろいろな物があるかもしれません。ひとつはどういうふうのマラリアが人間に transformed（モスキートから）。そして、how many people have マラリア？ What kind of people get this disease, what are the dangers, how long have people been carrying the disease, relation to people with（cellcycle）

学生の予測をみると、ほとんどの学生がアマゾンやマラリアについて予備知識を持っていることがわかる。ただアマゾン地域の開発の問題と結びつけて予測した学生は一人もいなかった。しかし、②の学生の「今マラリアが発生しているにちがいない。でなければ、このような記事を書かないだろう。」という推測や①の学生の「毎日新聞だから、技術の日本語は使わない」というような推測は、学生たちが、母語においてもそのような予測のストラテジーを持っていることを裏づけているといえるだろう。また、⑤の学生の「もしその題名が英語で書いてあれば、その記事を読まないだろう。」というコメントは、我々教師が学生に与えるテキストが、いかに学生の真に読みたいと思うものから遠いか、ということを反省させてくれた点でおもしろかった。

さて、これらの学生が行った予測とその当りはずれの確認をまとめたものが以下の表である。各学生の欄の左側の「答」というのは、学生自身の答え（予測はa b cの3択、自由記述のところは空にしてある。予測のモニターの答にあるY=はい、N=いいえ）で、右側の「評」というのは教師による評価（◎=学生の予測が非常に当たっている、○=当たっている、×=ちがっている）を表す。「/」は無答である。

		①		②		③		④		⑤		⑥	
		答	評	答	評	答	評	答	評	答	評	答	評
1	題名からの予測		○		○		○		○		○		○
2	予測のモニター 1→2・3の予測	Y b	○ ○	N a	○ ×	Y b	○ ○	Y b	○ ○	N a	○ ×	Y b	○ ○
3	予測のモニター 2・3段落の設問 2・3→4の予測	Y c a	○ ○ ○	N c c	○ ○ ×	Y c a	○ ○ ○	Y c b	○ ○ ×	N c a	○ ○ ○	N c b	× ○ ×
4	予測のモニター 4段落の設問 4→5・6の予測	Y a c	○ ○ ○	Y b c	× × ×	Y a c	○ ○ ○	N a c	○ ○ ○	Y a c	○ ○ ○	Y b c	× × ○
5	予測のモニター 5・6段落の設問 5・6→7の予測	Y a	○ ◎ ○	N /	○ ○ /	Y a	○ ◎ ○	Y c	○ ◎ ×	Y c	○ / ×	Y /	○ / /

たとえば、②の学生が2の「1→2・3の予測」（第1段落から次の段落の予測）のところで「a」と予測したのは間違っていたので「評」（教師の評価）は「×」となっているが、この学生はその次の段落を読んだところで「あなたの予測は当たっていましたか。」に対して「N（いいえ）」と答えているので、自分の予測がはずれたことを正しくモニターできていくことになり、3の予測のモニターの「評」（教師の評価）は「○」となる。それに対して、同じ②の学生が3の「2・3→4の予測」のところで「c」という予測をしたのは間違っていたにもかかわらず、次の段落を読んだと

ここで「予測は当たっていましたか。」という質問に「Y (はい)」と答えているのは、自分の間違いを正しくモニターできていないことになり、予測のモニターの教師の「評」は「×」となるのである。つまり、「予測」の「評」欄にある×印は、その学生の予測力が弱いことを示し、「モニター」の「評」欄にある×印は、その学生のモニター力が弱いことを示すとみてよい。②の学生はかなりの日本語力があると聞いていたが、予測の間違いもモニターの間違いも多かった。このクラスの担当の先生によれば、日本語の力はあるが、かなり自己中心的な性格で授業もよく休むし、教師の指示通りに物事を処理するのが苦手なタイプで、自分の自由意志で何かをする時に実力を発揮するタイプだそうである。本人も授業後、何をしてよいのかよくわからなかったし、集中できなかったと言いつていた。

しかし、全体的にみると、ある程度の子備知識をもっている学生の場合、日本語が弱い学生でも接続詞を手がかりにして予測する指導をしていけば、ある程度文脈を正しく予測して読むことができると考えてもいいのではないだろうか。最後の「5・6段落→7段落の予測」では、ヒントが接続詞ではなく「もちろんブラジルでは…」というものであったためか、日本語が弱い学生④⑤⑥は3人とも正しく予測することができなかった。また、5の設問のように、全体の流れのアウトラインを図示してキーワードを穴埋めさせるようなものは、やはり日本語が弱い学生にはむずかしかったようである。大きな筋を追って行くことはできても、細かいところまで拾うには、日本語の全般的な力が必要ということであろう。

4. まとめと今後の課題

授業後、これら6名の学生に簡単な日・英語によるアンケート調査（〔資料4〕）を行った。アンケートは無記名で、次のような3つの質問からなっている。

1. このような予測しながら読む練習についてどう思いますか。
 - a. 一語一語読んでいくより、わかりやすい。
 - b. 一語一語読んでいくより、むずかしい。
 - c. わからない。

2. このような練習は読む力をつけるために役に立つと思いますか。
 - a. とても役に立つ。
 - b. 役に立つ。
 - c. あまり役に立たない。
 - d. ぜんぜん役に立たない。
 - e. わからない。

3. この読み練習のクラスについて何でも意見を書いてください。

その結果、1については、6名中4名の学生がa、2名の学生がcと答えた。また、2については、3名がa、残りの3名がbと答えた。3の自由記述のところについては、以下に学生の授業についてのコメントをそのまま記す。

○The pace fast which was helpful to have a real life YOMIMONO. Using conjunctions to formulate predictions was an interesting but sensible strategy. As for the reading subject matter, it was somewhat bland. Something along the lines of HDTV, DAT, or automotive engineering would be more interesting than Malaria.

○I thought that the method was very good, but there was a little too much new vocabulary. Too much to be able to learn confidently.

○O. K.

○Enjoyable, rather easy to read, especially the Kanji readings below. Good teaching style, interesting (not おもしろい) reading selection.

○The "Malaria" reading was somewhat boring, but the Kanji I think are useful to know.

工科の学生に「マラリア」というのは、確かにテキストの選択としてあまり適当ではなかったかもしれないが、このような接続詞による予測練習というのは、おおむね好評のようであった。このように自分一人で、ある程度の速さで読んでいく練習が本当の読みに近いから良い、という学生からのコメントは、まさにその通りだろうと思う。このような練習を積み重ねることによって、予測力をつけると同時に、自己モニターの力をつけていくことが、読解力をつけるために有効なのではないかと思われる。このような練習教材を、さらにいろいろな分野について作成していくのが今後の課題である。

もっとも、科学技術の文献というと、このテキストのように接続詞が頻繁に使われて、内容構成が分かりやすく並べられている例ばかりではない。接続詞がほとんど使われていない文章も多いし、接続詞の使い方があいまいで、必ずしもその基本的な意味で使われてはいない場合もある。たとえば、「したがって」という接続詞が「結果→原因」というはっきりした関係を示しておらず、ただ文をつなげるために使われているような場合も多い。そのような場合に、接続詞に代わって予測を助ける手がかりとなるのは一体何なのか、あるいはそのほかに語彙レベルの予測・推測、統語レベ

ルの予測・推測、そして文章レベルの予測・推測の手がかりとなる情報を、いかに読解教材や読解指導の方法に生かしていくか、などに文章論の談話分析の先行研究を参考にしていくことも必要であろう。外国語の読解の技能については、まだまだ不明の点が多いが、少しずつ解明するべく研究を続けながら、実践を重ね、指導方法を確立して行きたいと思う。

注

- 1) 参考文献2、3および10を参照のこと。
- 2) アルクから出ている雑誌『英語教育』7月号 vol. XXXVIII, no. 4 (1989) に「これからのリーディング指導」という特集で10の論文が掲載されているが、この3技能を取り上げているものも多い。
- 3) 1991年日本語教育学会秋季研究大会における東京工業大学の谷口すみ子氏の発表によれば、日本語の中級者で専門知識がない者と初級者で専門知識がある者に同じ文章を読ませる実験をした結果、日本語初級者であっても、専門知識を持っていれば、ある程度正確に内容の大意をつかむことができる、と報告されている。
- 4) 天満(1989)はp. 83で「ストラテジーとは、もともと軍事用語で、目的遂行のための長期にわたる総合戦術を指し、個々の実戦においては部分的修正を必要とする場合もある。」と説明している。
- 5) MITの3年生のクラスは聴講生3名を含めて11名ということであった。しかし、1日目の出席者が8名、2日目も8名だったが、両方に出た学生は6名であった。
- 6) 平成2年度科学研究費補助金による国際学術研究(研究代表者:大坪一夫、課題番号02044020、研究課題「外国人研究者の科学・技術日本語読解能力を養成するための効率的な教材・方法の開発」)、および平成3年度・平成4年度科学研究費補助金による国際学術研究(研究代表者:加納千恵子、課題番号03044026)の予備調査として、教師の読解指導行動を抽出、形式化するために行われた実験授業であり、授業はVTRに収録され、筑波大学教育学系の渡邊光雄助教授によって刺激回想法による分析の対象となったものである。
- 7) 『専門書を読むための読解練習』(1990)に関しては、参考文献4に詳しい説明がある。
- 8) MITでこの3年生のクラスを担当している竹中先生と面談して、各学生の日本語力について評価を聞き、この順番を決めた。

参考文献

1. 石井恵理子(1988)「専門書読解の導入」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第3号
2. 岡崎敏雄・中條和光(1989)「文章理解過程の研究に基づく読解指導」『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』広島大学教育学部留学生日本語教育・日本語教育学科

3. 岡崎敏雄・長友和彦（1989）「スキルシラバスによる読解指導」『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』広島大学教育学部留学生日本語教育・日本語教育学科
4. 加納千恵子（1990）「専門書を読むための読解指導について」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第6号
5. 小出慶一（1991）「読解能力の操作的規定と読解テスト・シラバスの骨格について」『産能短期大学紀要』第24号
6. 高木裕子（1990）「速読用読解教材開発に向けてーリーダービリティー研究を基礎にしてー」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』第1号
7. 立松幾久子（1990）「上級学習者に対する読解指導」『日本語教育』72号日本語教育学会
8. 谷口すみ子（1991）「読解に関する文献調査の報告」（平成2年度科学研究費補助金一般研究（B）理工学系日本語学習者の専門書読解過程に関する実証的研究（課題番号02451035）研究成果中間報告書）
9. 天満美智子（1989）『英文読解のストラテジー』大修館書店
10. 畠弘巳（1989）「読解教育における文法の役割」『日本語学』第8巻第10号明治書院
11. 山本一枝（1985）「大学一般教養専門書の読みの難易と文体の特徴ー日本語中級読解指導との関連においてー」『筑波大学留学生教育センター日本語論集』第1号
12. ——（1989）「読解力の養成法」『講座日本語と日本語教育第13巻日本語教授法（上）』明治書院
13. Ellen Block（1986）“The Comprehension Strategies of Second Language Readers” in TESOL Quarterly, vol. 20, No. 3
14. Françoise Grellet（1981）“Developing Reading Skills” Cambridge University Press

本論文は平成3年度～平成4年度科学研究費補助金による国際学術研究（課題番号03044026：研究代表者加納千恵子）による助成に基づくものである。

[資料1] 読解授業用テキスト

読解 練習

名前 _____

1. 次の題名を見て、あなたは何を考えますか。これから読もうとするものについて予測できることを何でも書いてください。

What do you think of when you see the following title?

Write whatever you can predict from the title of the article that you are going to read.

アマゾンのマラリア

Malaria in the Amazon area

2. 次の文を、先を予測しながら読んでください。

マラリアはブラジルでは一度は克服された病気だった。殺虫剤の適切な使用で、人口集中地区や沿岸地区の発生を実質的にコントロールした。アマゾン地域には存続していたが、発病は少数で、公衆衛生上の脅威にはならなかった。

ところが、・・・

克服(こくふく)する to prevail 殺虫剤(さっちゅうざい) an insecticide
 適切(てきせつ)な appropriate 人口(じんこう) population
 集中(しゅうちゅう) concentration 地区(ちく) a district
 沿岸(えんがん) the coast 発生(はっせい) occurrence
 実質的(じっしつてき)に substantially
 地域(ちいき) an area
 存続(そんぞく)する to continue to exist
 発病(はつびょう) an outbreak (of a disease)
 公衆(こうしゅう) public 衛生(えいせい) health
 ～上(じょう) from the viewpoint of ～ e.g. 教育上 educationally
 脅威(きょうい) a threat

1. 題名から予測したことは、当たっていましたか。
 Do you think what you predicted from the title was correct?
 a. はい b. いいえ c. わからない
2. この次には、どんなことが続くと予測できますか。
 a. マラリアはブラジルからなくなった。
 b. ブラジルではマラリアが増えてきた。
 c. マラリアが世界中に広がってきた。

3. 次の文を、先を予測しながら読んでください。

ところが、1980年代に入って様子が変わった。83年に29万7千例（うちアマゾン地域28万7千例）の患者が報告され、88年には56万例（同50万例）に増えた。

原因は明らかにアマゾン地域の開発とそれに伴う大量の移住にあった。森林を伐採して農地を拓く人たちが、金鉱の労働者たちの多くはマラリアに免疫を持っていなかった。

加えて、・・・

1980年代(ねんだい) 1980's	様子(ようす) a condition
例(れい) a case	患者(かんじゃ) a patient
報告(ほうこく)する to report	同(どう) the same
原因(げんいん) a cause	明(あき)らかに clearly
開発(かいはつ) development	～に伴(ともな)う accompanied by ~
大量(たいりょう)の extensive	移住(いじゅう) immigration
伐採(ばっさい)する to cut down	拓(ひら)く to cultivate
金鉱(きんこう) a gold mine	労働者(ろうどうしゃ) a laborer
免疫(めんえき) immunity	

1. 前の段落から予測したことは、当たっていましたか。

Do you think what you predicted from the previous paragraph was correct?

- a. はい b. いいえ c. わからない

2. アマゾン地域でマラリアの患者が増えた原因は何ですか。

- a. この地域の森林が伐採され、金鉱が開発されたのに、病院ができなかったこと
b. この地域に前から住んでいた人たちがマラリアの免疫を持っていなかったこと
c. この地域が開発され、それに伴ってマラリアの免疫を持たない人がたくさん移住してきたこと

3. この次にはどんなことが続くかと予測できますか。

- a. マラリアが増えたもう一つの原因
b. マラリアが増えてどうなったか、という結果
c. マラリアが増えて、よくなったこと

4. 次の文を、先を予測しながら読んでください。

加えて、開発による環境変化が、媒介昆虫の蚊の繁殖を促した。蚊は川の流れているところではなく、よどんだ場所、水たまりなどで繁殖しやすい。その水たまりが、開発によってできやすくなったのだ。鉱山の露天掘りのあとは水がたまるくぼみになるし、建設した道路のわきの溝も繁殖場所になる。

さらに・・・

環境(かんきょう) environment	媒介(ばいかい) a carrier
昆虫(こんちゅう) an insect	蚊(か) a mosquito
繁殖(はんしょく) breeding	促(うなが)す to stimulate
よどんだ stagnant	水たまり a puddle
鉱山(こうざん) a mine	露天掘(ろてんぼ)り an open mine
たまる to stand, to be stagnant	くぼみ a hollow
建設(けんせつ)する to construct, to build	
道路(どうろ) a road	わき the side
溝(みぞ) a drain	

1. 前の段落から予測したことは、当たっていましたか。

Do you think what you predicted from the previous paragraph was correct?

- a. はい
- b. いいえ
- c. わからない

2. マラリアが増えたもう一つの原因は何ですか。

- a. 開発によって水たまりができ、そこに蚊が繁殖したこと
- b. アマゾン川という大きな川が流れているため、蚊がたくさんいること
- c. 開発によって環境がよくなったので、人ばかりでなく蚊も増えたこと

3. この次にはどんなことが続くかと予測できますか。

- a. マラリアが増えて、困ったこと
- b. マラリアが増えてどうなったか、という結果
- c. マラリアが増えた別の原因

5. 次の文を、先を予測しながら読んでください。

さらに森林の開墾は土壌の侵食を促し、流れた土のたい積で“土手”ができると、洪水後に水がひきにくい。広い水たまりは蚊の大発生を招く恐れがある。

さらに鉱山地区などの粗末な家屋は、蚊の出入りが自由。蚊に無防備な造りになっている。また、道路ができて交通が便利になると、非流行地区からアマゾンへ働きに出て、マラリアに感染して帰ってくるケースも増える。

開墾(かいこん)する to clear	土壌(どじょう) soil
侵食(しんしょく) erosion	たい積(せき) accumulation
土手(どて) a (river) bank	洪水(こうずい) a flood
ひく to subside	招(まね)く to cause
恐(おそ)れ danger	粗末(そまつ)な poor (quality)
家屋(かおく)=家	自由(じゆう)だ free
無防備(むぼうび)な unfortified	造(つく)り structure
流行(りゅうこう) prevalence	
感染(かんせん)する to be infected with	

1. 前の段落から予測したことは、当たっていましたか。
Do you think what you predicted from the previous paragraph was correct?
- a. はい b. いいえ c. わからない

2. マラリアが増えた原因をまとめる(to summarize)と、次のようになります。(a. ~f.) に適当な言葉を入れてください。

原因は アマゾン地域の (a.) と (b.) の増加

+

加えて 環境変化による (c.) の発生

e.g. 開発 → 水たまり → (c.) が発生する
さらに (d.) → 洪水 → 水たまり → (c.) が発生する
さらに (e.) → (c.) が自由に
出入りできる

+

また、(f.) ができて交通が便利になり、マラリアの感染が広まるようになった

3. この後、文章は「もちろんブラジルでは・・・」と続きます。今までのところを読んで、話がどうなると思うか、予測してください。
- a. マラリアに対して対策が進められているが、うまくいっていない。
b. われわれは協力(きょうりょく to cooperate)して、マラリアを克服しなければならない。
c. 水たまりをなくし、また、鉱山の家を蚊が入らないようになおすなど、マラリアの原因をなくすようにする。

6. ここまでのところをもう一度読んで、全体の流れをつかみなさい。

アマゾンのマラリア

マラリアはブラジルでは一度は克服された病気だった。殺虫剤の適切な使用で、人口集中地区や沿岸地区の発生を実質的にコントロールした。アマゾン地域には存続していたが、発病は少数で、公衆衛生上の脅威にはならなかった。

ところが、1980年代に入って様子が変わった。83年に29万7千例（うちアマゾン地域28万7千例）の患者が報告され、88年には56万例（同50万例）に増えた。

原因は明らかにアマゾン地域の開発とそれに伴う大量の移住にあった。森林を伐採して農地を拓く人たちが、金鉱の労働者たちの多くはマラリアに免疫を持っていなかった。

加えて、開発による環境変化が、媒介昆虫の蚊の繁殖を促した。蚊は川の流れているところではなく、よどんだ場所、水たまりなどで繁殖しやすい。その水たまりが、開発によってできやすくなったのだ。鉱山の露天掘りのあとは水がたまるくぼみになるし、建設した道路のわきの溝も繁殖場所になる。

さらに森林の開墾は土壌の侵食を促し、流れた土のたい積で“土手”ができると、洪水後に水がひきにくい。広い水たまりは蚊の大発生を招く恐れがある。

さらに鉱山地区などの粗末な家屋は、蚊の出入りが自由。蚊に無防備な造りになっている。また、道路ができ交通が便利になると、非流行地区からアマゾンへ働きに出て、マラリアに感染して帰ってくるケースも増える。

< 全体の流れ >

ブラジルではマラリアは一度は克服された

ところが、

1980年代に入ってマラリア患者が増えた

原因は

アマゾン地域の開発と移住
↓
蚊の大発生
+
感染が広まる

7. 興味のある人は、続けて読んでください。

もちろんブラジルでは公衆衛生活動監督局（SUCAM）を中心に対策を進めているが、あまり功を奏していないようだ。ひとつの理由は屋内にとどまらないタイプのマラリア蚊（変種）が登場、壁などへの殺虫剤噴霧が有効でなくなったためだという。一部の居住区では流行が下火になったが、これは水が汚れ過ぎて蚊も産卵できなくなったため、というから皮肉である。

アマゾンの熱帯林は“地球の肺”といわれる貴重な存在だ。マラリアの流行はその開発（破壊）に対する天罰といえるだろう。環境などへの配慮を欠いた開発が続けば、次の天罰はもっと恐ろしい形で下るのではないか。
(科学部長・清水 洋一)

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 公衆衛生(こうしゅうえいせい) public health | 監督(かんとく) supervision, inspection |
| 活動(かつどう) activity | ～局(きょく)～ Bureau |
| 功(こう)を奏(そう)する to be effective | 対策(たいさく) a counterplan |
| 屋内(おくない) = 建物の中 | とどまる to stay |
| 変種(へんしゅ) a variant | 登場(とうじょう)する to appear |
| 壁(かべ) a wall | 噴霧(ふんむ)する to spray |
| 有効(ゆうこう)な effective | 居住区(きょじゅうく) residential area |
| 下火(したび)になる to wane | 産卵(さんらん)する to lay eggs |
| 汚(よご)れる to become dirty | 熱帯林(ねったいりん) tropical forests |
| 皮肉(ひにく) irony | 肺(はい) the lungs |
| 地球(ちきゅう) the Earth | 存在(そんざい) existence |
| 貴重(きちょう)な invaluable | 天罰(てんばつ) divine retribution |
| 破壊(はかい) destruction | 配慮(はいりょ)を欠(か)く to neglect |
| 恐(おそ)ろしい terrible | 下(くだ)る to be given |

[資料2] 接続詞の復習用プリント

【参考資料(さんこうしりょう)】

Reference material

If you think your knowledge about Japanese conjunctions is not sufficient, please refer to this.

いろいろな接続詞や接続の表現

① X + Y : XにYをつけ加える
addition

そして : 日本は国土(こくど a land)がせまい。そして、資源(しげん resources)も少ない。 and

および : 東京は政治および経済の中心である。
and

また : ポストンは、アメリカで最も古い町として有名だ。
また、ハーバード大学やMITでも知られている。
also

しかも : あのレストランの料理は安くておいしい。しかも、量(りょう amount)が多いので、学生に人気がある。and also

それに : カードを使えば、現金を持たなくていいから、便利だ。
それに、なくしても、安心だ。
besides

その上 : 道を聞いたら、親切に教えてくれた。その上、地図までかいてくれた。 besides

さらに : 大学を卒業してから、さらに大学院へ進んだ。
and

加えて : 今年の冬は、例年(れいねん typical year)に比べて寒い。
加えて、雪も多いため、野菜の値段が上がっている。
in addition

② X → Y : Xが理由でYがその結果
consequence

だから : 今月はもうお金がない。だから、どこへも行けず、家でごろごろしている。 therefore

それで : 時間がなかったので、タクシーに乗った。それで、何とか会議に間に合った。 so

したがって : 日本は火山が多い。したがって、温泉(おんせん)もたくさんある。 consequently

そのため : 昨年(さくねん)から円高(えんだか)が続いている。そのため、留学生の生活は苦しくなっている。 thus

③ X ← Y : Xが結果でYがその理由 X because Y
reasoning

なぜなら : 24日のテストは延期(えんき to postpone)された。
なぜなら、その日はバス会社のスト(a strike)があって、学生が集まるのがむずかしいからだ。

なぜかという : このごろはだれでもコンピュータについて知っている。
なぜかという、いろいろな家庭用品(かていようひん home appliances)にもコンピュータが使われているからである。

というのは : 最近、蚊(か a mosquito)が多くなった。というのは、工事のために、水たまり(a puddle)がたくさんでき、蚊が繁殖(はんしよく breeding)しやすくなったからだ。

④ X ↔ Y : XとYは反対の内容
contrast

けれども : 日本語はむずかしい。けれども、面白い。
but

でも : デパートへ行った。でも、何も買わなかった。
but

だが : 説明を何度も読んだ。だが、よくわからなかった。
but

しかし : 日本ではスポーツをしている時、水を飲んではいけない
と言われていた。しかし、アメリカでは反対に、水を
十分飲むように言われるという。however

ところが : 学生時代、山田さんはずっと結婚しないと
言っていた。ところが、3年ぶりに会ったら、子どもが3人もいた。
however, on the contrary

これに対して/これに反して : on the other hand
アメリカは、言葉で主張(しゅちよう to assert)する
社会である。これに対して、日本は、何も言わなくても
察する(to guess)社会だといわれる。

⑤ X or Y : XかYのどちらか X or Y
choice

または : 学生証(がくせいしょう a student i.d.)または運転免許
証(うんでんめんきょしょう a driver's licence)を見せ
なければならない。

あるいは : ここは、カタカナあるいはローマ字で記入すること。

もしくは : バスもしくは地下鉄でおいでください。

ないし(は) : この病気がなおるには、2ヶ月ないし3ヶ月かかるで
しょう。

それとも : 就職(しゅうしょく to get a job)しようか、それとも
研究を続けようか、迷(まよ to wonder)っている。

⑥ X ; Y : Xの内容をYで限定する(条件をつける)
complement X provided (that) Y, except Y, although Y

ただし : 日本の銀行は午前9時から午後3時までである。ただし、
キャッシュ・カードなら、夕方6時まで使える。

もっとも : 父の病気は、手術(しゅじゅつ a surgical operation)を
すれば99%なおるそうだ。もっとも、父は年をとって
いるので、手術ができるかどうかの問題だ。

⑦ X = Y : Xの内容をYで言いかえたり例をあげたりして説明する
paraphrase

つまり : 英語の辞書はアルファベット順(じゅん)、つまりABC
の順番に並んでいる。 that is

すなわち : 日本語の辞書は五十音(ごじゅうおん)順、すなわち「ア
イウエオ」の順番に並んでいる。 that is

要するに : 彼は勉強も仕事もやらないが、スポーツや音楽などが好
きなわけでもない。要するになまけものなのだ。
in a word

たとえば : 父は、健康(けんこう health)によくはないものは全然やら
ない。たとえば、酒もタバコも飲まない。
for example

⑧ X || Y : XからYに話題を変える

topic change

さて : これで天気予報(てんきよほう)を終わります。
さて、交通情報(こうつうじょうほう)をお知らせします。

now

ところで : 先日はいろいろとお世話になりました、ありがとうございます
いました。ところで、お願いした書類のことで...

by the way

⑨ X→Y→Z : Xの次にY、その次にZがくるという順序を表す

sequence

まず : まず / はじめに、フロッピーを入れ、スイッチを入れる。

はじめに : firstly, at first

そして : そして、画面(がめん)が出たら、リターン・キーを押す。

and

すると : すると、登録番号(とうろくばんごう registration no.)

then の入力画面が出るから、番号を入れる。

次に : 次に、ユーザーの名前を入れる。

next, secondly

それから : まず日本語を勉強する。それから、専門の研究を始める。

after that

そこで : 体重が5kgも増えた。そこで、運動を始めることにした。

then, so

* 「そこで、」 + 'intentional action' と 「すると、」 + 'incidental, unintentional sequence'

** 「最初に / 最後に(さいしょに / さいごに at first/at last)」、「第一 / 第二 / 第三 / ...」などもある。

[資料3] 読解授業用補助教材：接続のタイプによる予測練習

読解角早練習 (どっかいれんしゅう)
Reading Comprehension Exercises

1 : 接続 (せつぞく)
Conjunction

接続のタイプと意味(meaning)		例(examples)
① X + Y addition	XにYをつけ加える (XとYは同じようなこと)	そして、また、さらに、 しかも、etc.
② X → Y consequence	Xが理由でYがその結果	だから、それで、 したがって、etc.
③ X ← Y reasoning	Xが結果でYがその理由 (②と順序が反対)	なぜなら(ば)、というのは、 etc.
④ X ↔ Y contrast	XとYは反対の内容 (または、予想外の内容)	けれども、しかし、 ところが、etc.
⑤ X or Y choice	XかYのどちらか	または、あるいは、 もしくは、etc.
⑥ X ; Y complement	Xの内容をYで限定する (条件をつける)	ただし、もっとも
⑦ X = Y paraphrase	Xの内容をYで言いかえたり 例をあげたりして説明する	すなわち、つまり、 たとえば、etc.
⑧ X Y topic change	XからYに話題を変える	ところで、さて
⑨ X → Y → Z sequence	Xの次にY、その次にZが くるといふ順序を表す	まず、はじめに、次に、 それから、etc.

2 : 接続のタイプによる予測 (よそく)
Prediction from the type of conjunction

練習 I . 次にどんな文が来るか、予測 (よそく) ください。

例. 時間はある。だが、

{	a. お金もある。	タイプ④
	b. お金がない。	
	c. お金はないほうがいい。	

1. 頭も痛いし、熱もあった。それで、

- | | |
|---|-------------------------|
| { | a. 試験があったので、大学へ行った。 |
| | b. きょう遅くまで外で働いていたからだろう。 |
| | c. その日は大学を休んで、おていた。 |

2. 英語と日本語は反対のことが多い。ただし、

- | | |
|---|--------------------------------------|
| { | a. 英語の動詞は主語の次に来るが、日本語の動詞は一番終わりに来る。 |
| | b. どちらも人間の言語なので、やはり共通の点もある。 |
| | c. 英語を話す時と、日本語を話す時では、考え方を変えなければならない。 |

* 反対(はんたい) opposite 動詞(どうし) a verb
主語(しゅご) subject (gr.) 共通(きょうつう) common

3. 病院まではバスが出ている。あるいは、

- | | |
|---|-----------------------|
| { | a. タクシーを利用してよい。 |
| | b. あまり数が出ていないので不便である。 |
| | c. 何時ごろ行けばよいだろうか。 |

* 利用(りよう)する to use

4. 円が高くなれば、日本では輸入品が安くなるはずだ。ところが、

- a. 車や服や食べ物などが安くなるだろう。
- b. いろいろな物がずいぶん安くなった。
- c. ぜんぜん安くなっていない。

* 輸入品(ゆにゅうひん) imported goods

5. 大都市は住みにくい所である。物価は高いし、空気はきたないし、

- さらに、
- a. 人口が多いので、せま苦しい。
 - b. 交通は便利である。
 - c. あまり人は住みたがらない。

* 物価(ぶっか) prices 空気(くうき) air

6. この病気は、最近では大変少なくなった。なぜなら、

- a. ブラジルのアマゾン川地域で、また増えてきた。
- b. 医者があまり研究をしなくなった。
- c. 医学が進歩して、いい薬ができるようになったからである。

* 地域(ちいき) area

7. 敬語というのは、日常生活でもよく使われる。たとえば、

- a. 相手に対する尊敬の気持ちを表す言い方である。
- b. 「いらっしゃいます」や「なさいます」のような言い方である。
- c. 最近の若い人はあまり知らないようだ。

* 敬語(けいご) honorific language
日常(にちじょう) every day, daily
尊敬(そんけい) respect

8. 東京の近くの土地は高くてなかなか買えない。したがって、

- a. 不動産業者が土地の値段をつり上げているのである。
- b. 家から会社まで2時間も3時間もかかる人がたくさんいる。
- c. いなかへ行けば、まだまだ安い土地がある。

* 不動産業者(ふどうさんぎょうしゃ) realty dealers
値段(ねだん)をつり上げる to boost prices

9. 日本の1971年のGNPは世界第3位であったが、国民一人当りの所得は13位であり、自分の家も買えない。つまり、

- a. ほかの国から見れば、経済大国であるといえるだろう。
- b. 国は金持ちでも、国民はそうではないということだろう。
- c. 日本人の家を「ウサギ小屋」と呼んだのはだれだったか。

* 第3位(だいさんい) the 3rd place
国民(こくみん) a people
一人当(ひとりあた)り for each person
所得(しょとく) income

10. ドイツのマックス・プランク生物学研究所では、新しい方法を使って、
トマトとじゃがいも(ポテト)の細胞を融合させ、「ポマト」を作るの
に成功した。ただし、

- a. ドイツ人は「ポマト」をたくさん食べる。
- b. トマトとレタスの細胞を融合させた「トマス」という野菜を作っている。
- c. まだ「ポマト」の実は、できていない。

* 細胞(さいぼう) a cell 融合(ゆうごう)する to fuse
成功(せいこう)する to succeed, to be successful
実(み) a fruit

〔資料4〕 学生用アンケート

【 お 願 い 】

次の質問に答えてください。

1. このような予測しながら読む練習についてどう思いますか。
What do you think about this kind of reading practice using prediction?
 - a. 一語一語読んでいくより、わかりやすい。
It's easier to understand than reading word by word.
 - b. 一語一語読んでいくより、むずかしい。
It's more difficult to understand than reading word by word.
 - c. わからない。
I don't know.
2. このような練習は読む力をつけるために役に立つと思いますか。
Do you think this kind of practice helps you to develop your reading ability?
 - a. とても役に立つ。
It's very helpful.
 - b. 役に立つ。
It's helpful.
 - c. あまり役に立たない。
It's not so helpful.
 - d. ぜんぜん役に立たない。
It's not helpful at all.
 - e. わからない。
I don't know.

3. この読み練習のクラスについて何でも意見を書いてください。
Please write your comments on these reading classes.

ご協力、ありがとうございました。

Thank you very much for your cooperation.

筑波大学留学生教育センター
Education Center for
Foreign Students

加納 千恵子
Kano Chieko